

多様な面から方谷像をクローズアップし交流人口を増やす

方谷研究会

活動の目的

山田方谷に関心を寄せる人々に意見交換、自己研鑽の場を提供し、また、在野で研究をする人々に研究成果を発表する場を提供することにより、「方谷学」の発展を図り、併せて地域の文化の向上を目指す。

活動の内容及び経過

① 研究会の開催

10月15日に岡山シティミュージアムの講義室を会場に、会員をはじめ65人の参加者を迎え、第6回研究会を開催。発表者は高梁方谷会副会長・児玉亨氏「山田方谷の高弟・福西志計子」、当研究会の朝森要会長「安政の大獄と山田方谷」、東洋大学名誉教授・吉田公平「山田方谷の陽明学」と、3名が日頃の研究成果を披露。ことに、陽明学の研究では国内でも有数の吉田公平先生に難解な思想を噛み砕いてお話いただき、参加者からは理解が深まったという声が聞かれた。また、児玉氏の発表は方谷ゆかりの地元高梁ならではの内容で、新たな知見を開かれた人も多かった。なお、研究会終了後に開催した意見交換会では、研究会参加者の半数以上が集い、活発な情報交換を行った。

② 会報誌「山田方谷ゼミナル」第5号の刊行

前年の研究会における発表者の発表要旨を収録するほか、史料的高い「知本館蔵書目録」（和に守会員）、「備中松山藩有終館蔵書目録」（横山定会員）の他、新見出身で大阪在住のシップ・ヘルスケア古川國久会長の寄稿も掲載した。

③ その他

高梁方谷会、新見市方谷さんを広める会などと鳥取県日南町教育委員会の案内で、同町の木下家の調査に参加。（山田方谷を経済的に支援した新見市上市の矢吹家の母方の出所で、たたら製鉄で財を成す）未公開の方谷の書状を確認。

また、方谷さん広める会の応援、吉備路文学館で開催方谷展の広報支援を行ったほか、3月に放映されたNHKBSプレミアムで放映された「英雄たちの選択～奇跡の藩政改革者 山田方谷 無血開城に挑む」の岡山での取材に協力した。（取材班が会長宅を訪れる。また、取材スタッフからの照会への対応）

活動の成果・効果

- ・ 山田方谷、あるいは周辺の人物や歴史に関心を抱いて地道な研究を続ける在野の研究者に発表の場を提供できた。
- ・ 国内有数の中国思想の研究者に、方谷の思想を読み解いてもらい、山田方谷に対する理解を深めていただくことができた。
- ・ 会報誌の刊行により、山田方谷、さらには郷土の文化に



関する情報を広く発信できた。

とりわけ、第5号で紹介掲載した蔵書目録は、基礎史料として今後の研究の礎となることが期待される。その他、新出史料を紹介することができた。

- ・ 会員、その他同学の人に意見交換の場を提供できた。
- ・ テレビ番組の作成、収録に支援、貢献し、方谷の県内外への情報発信に与った。

今後の課題と問題点

- ・ 研究会の対象、内容から会員に高齢者が多く、今後、若年層の会員を増やしたい。
- ・ 研究会の開催と会報誌「山田方谷ゼミナル」の刊行が主な活動となっているが、新史料の発掘調査、紹介に努めるとともに、ゆかりの地の探訪や現地研修、あるいは、方谷の書状を読む会の定期的開催などの活動も検討したい。
- ・ 他の関連団体との交流は、情報交換もでき、刺激を受けることから有効であると考えますが、共同調査の場合は、史料の所有者や相手への配慮もあり、会報誌での紹介が困難なケースもある。
- ・ 経費の支出の大半を占めるのが会報誌「山田方谷ゼミナル」の作成発行であり、年1回の刊行が経済的に厳しい状況にあり、目下、助成金を得て第5号まで刊行できたが、今後は毎年の刊行が危ぶまれる状況にある。なお、会報誌は、当初、研究会参加記や随想、近況報告といった仲間内の記事が多かったが、回を重ねるに従って史料的高い価値を有する、学術性を帯びた内容のものになり、寄稿者、投稿者も多いのが現状である。
- ・ 年に一度開催する研究会の他に、会員相互の情報交換の場を検討する必要がある。

- 代表者：朝森要 ● 所在地：岡山市北区丸の内
- TEL：086-235-3456
- 設立年：2012年 ● メンバー数：74名